

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年2月26日

事業所名 児童発達支援センター虹の家 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標工夫している点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			厚労省の指定基準通りに確保しているが、療育活動が十分に行えるよう今後も環境整備に努める。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			職員配置基準通りに配置し、今後も必要に応じて個別対応できるように配慮していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			各フロアバリアフリー、階段は手すりを設置しているが、より安全に配慮した環境配慮に努める。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			職員会議の中で職員全体で確認している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者向けのアンケート結果から保護者の意向を職員全体で共有し、必要な業務改善に活かしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HPにて公開するとともに、玄関に掲示している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			第三者委員会での評価を参考にしている。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人内の研修や月1、2回の職員研修、外部研修に積極的に参加するようにしている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			半年に1回以上、モニタリング時にアセスメントを取り、利用計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			標準化されたアセスメントツールを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			毎月、翌月の活動と担当を決め、活動プログラムは全員で話し合い実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			前回の反省や子どもの実態に応じて、その都度プログラムを変更している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか	○			平日、土曜、長期休暇それぞれにプログラムを作成し、特に長期休暇は日ごろ取り組むことが難しいダイナミックな活動を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			1日の活動の中で、個別で活動する場面と集団で活動する場面を計画している。また、子どもの状況によって活動のバランスを考え、計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			事前の打ち合わせは毎回必ず行うようにしている。その際、ホワイトボードや写真等活用し、具体的に確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			支援終了後の振り返りも毎回必ず行い、子どもの様子や活動の反省等話し合うようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			個人の記録と活動の記録、業務の記録は毎日必ず取り、モニタリング時や必要に応じて、支援の改善に活用している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			半年に1回以上モニタリングを行い、保護者や関係機関と話し合い、計画の見直しを行っている。
19	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			適宜組み合わせ合わせて支援しているが、「ウ 地域交流の機会の提供」は、今後機会を増やすよう努力する。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			主に児童発達支援管理責任者が参画し、必要に応じて担当職員も参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			下校時刻の連絡は保護者にいただいているが、休みや変更の連絡が来ないこともある。保護者への協力をお願いする。また、送迎時など担任と顔を合わせる機会に、情報交換をするようにしているため、学校との連絡調整はスムーズにできている。今後も心掛けていきたい。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		受け入れる環境が整っていないため、現在医療的ケアが必要に利用者は在籍していないが、今後医療機関との連携は図っていき
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で、情報共有と相互理解に努めているか	○		就学前に利用申し込みが提出された子供に関しては、相談支援事業所と連携を図り面談に参加させていただいたり、子どもたちの通う園や療育施設に参観に行き情報交換するように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		現在障害福祉サービス事業所等へ移行する利用者は在籍していないが、今後そのような場合にも対応できるように準備していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		児童発達支援センターとは常日頃連携を図り、研修に参加したり、アドバイスをいただいたりしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		児童クラブとは園庭を共有しているため遊びや行事と一緒に活動する機会がある。今後も続けていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		グループ会議や子ども部会の研修等に積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時やモニタリングなど顔を合わせる機会に情報交換し、現状や課題について話し合うようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		今後ペアレント・プログラムができるように職員の研修を実施していく。
	保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者向けの学習会を開催したり、子どもの対応に困っている相談があった場合は、じっくり話し合う機会を作りアドバイスするようにしている。
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者主催の保護者会は無いが、保護者向けの学習会や説明会等を行っている。今後は、保護者の意見をより反映させる形で続けていく。
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情受付や対応は契約時に説明している。保護者からの要望や苦情はセンターと連携して迅速に対応していく。
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		保護者向けのお便りは毎月発行している。今後は活動の様子や連絡事項を、より保護者に分かりやすい内容になるように工夫していく。
35		個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いに関しては、十分気をつけるように、職員会議等で確認している。
36		障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		必要に応じて配慮するようにしている。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		地域住民を招待する活動は実施できていない。今後検討する。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		各マニュアルについて、職員間で共通理解するとともに、保護者へも保護者会等で周知を図る。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月避難訓練を実施し、センターや児童クラブとの合同訓練も行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止の伝達研修や虐待防止研修用の冊子の読み合わせを職員会議で行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		身体拘束を必要とする利用者は在籍していないが、今後必要になった場合は、保護者の了解と計画への記載を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーのある利用者がいた場合は、栄養士と保護者が面談し対応するようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		問題が発生したら、全職員で事例検討を行い共通理解し、再発防止に努めている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。